

編集後記

日本機械学会 技術と社会部門 ニュースレターNo.39の発行にあたり

子供の「理科離れ」と言われて久しい。かつて、「三種の神器」と言われた「テレビ」、「洗濯機」、「自動車」は、生まれたときには、どの家庭にも「ごく一般的」にあり、「パソコン」や「携帯電話」、「スマートフォン」など、科学技術の結晶たる「便利な道具」に囲まれて育った世代、にも係わらず、理科に興味がない、という子供が何故か多くなってしまっているようである。

「ものづくり」においては、「失敗」を経験することも重要である。トーマス・エジソンなどのような過去の偉人は「上手く行かない方法を見つけたのだ」といった名言を遺しているが、「何故、上手くいかないか？」を理解し、「どうしたら上手くいくのか？」を、自ら考えていく能力を養うことは、技術教育においては非常に重要なことであるが、このような能力は、実際にモノを扱うことによってこそ、身に付けてくるものと思う。1970年代には「小学生にとって上手く組み立てられない」難易度の高いプラモデルなども結構あり(当時の鉄道模型や航空機模型の中には「そもそもが上手く組み立てられないような部品構成となっている」難易度スーパーハイレベルな組立キットなども販売されていた)、何度か「失敗」を経験することで、「ものづくり」に興味をもつようになった人も少なくない。

ニュースレターNo.39では、「ものづくり」教育について、技術と社会部門が取り組んでいる「スターリングエンジンの競技会・発表会」や「新☆エネルギーコンテスト」、「伝統産業工学および工学/技術教育セッション」といった活動を紹介するが、このような活動を通して「ものづくり」に興味をもつ人が、増えていくことを期待したいです。

「高専&カレッジ巡り」の第2弾は、長野工業高等専門学校です。長野県は、カメラや時計、などの精密機械工業や、パソコンに係わる機器類のような情報機器工業を得意とする県と言われておりますが、長野工業高等専門学校の学生さんたちも、ロボットやプログラミングなどに積極的に参加されているようです。長野県の「将来のものづくり」を発展させてくれる優れた人材が多く育ってくれることを願っています。

2018 年度広報委員会委員長 関根 康史 (福山大学).

発行： 一般社団法人 日本機械学会
The Japan Society of Mechanical Engineers
技術と社会部門
部門長 永井 二郎 (福井大学)
事務担当 大橋 江利奈

2019年3月11日発行
ISSN 2185-3177

編集： 第96期 広報委員会
委員長： 関根 康史 (福山大学)
幹事： 高藤 圭一郎 (西日本工業大学)
委員： 筒井 壽博 (弓削商船高等専門学校)
滝谷 俊夫 (Hitz 日立造船)
小宮 聖司 (神奈川工科大)
加藤 義隆 (大分大学)
吉田 敬介 (九州大学)

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.39

(C)著作権:2019 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門